

<第 25 回定期総会 逢見直人連合会長代行 あいさつ>

ご紹介いただきました連合で会長代行を務めております逢見です。コロナ禍における、この間の日本退職者連合の皆さんのご活躍に敬意を表します。また、日頃は連合運動へのご理解、ご協力を賜っておりますことに心より感謝を申し上げます。

連合の第 16 期も残すところ約 2 か月半となりました。今期はまさに、台風や豪雨などの自然災害、そして、コロナ禍と向き合いながらの取り組みが続くこととなりました。自然災害については、今年で東日本大震災から 10 年の年月が経過いたしました。今もなお、4 万人を越える方々が避難生活を余儀なくされ、福島県産の農産物や水産物は、依然として残る風評被害に悩まされています。また、台風や豪雨災害は毎年のように発生し、先日も静岡県熱海市の地域が土砂災害に見舞われました。尊い命を奪われた方々に謹んで哀悼の意を表します。また、大切な家族や仲間在先だたれた方々、あるいは、住む場所や穏やかな日常を失われた方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。

我々が心に深く刻んだ記憶と学んだ教訓は、けっして風化させてはなりません。被災地の、復興、再生に向けた取り組みを継続するとともに、被災地支援で積み重ねた経験と支えあい、助け合う気持ちをしっかりと未来につなげていくことが重要であります。

コロナ禍につきましては、東京が 4 度目の緊急事態宣言下になるなど、ワクチン接種が進められているとはいえ、我々の働き方や暮らし方は依然として大きな影響を受けています。コロナ禍に関連した解雇や雇止めで仕事を失った人はすでに 11 万人を越えるなど、雇用と賃金、労働条件が大きく脅かされています。また、パート、有期、派遣などの雇用形態やいわゆる「あいまいな雇用」で働く仲間、そして、女性、学生、外国人といった弱い立場、不安定な立場にある人ほど困難な状況に立たされています。そうした中で、差別や分断を呼び起こす事態もありました。

一方コロナ禍は、これまでのデジタル化、すなわち業務の効率化やサービスの高度化、あるいは付加価値を高める技術革新の進展を超えて、行政や企業の慣

習、働き方や暮らしの変革にもつながりうる、いわゆるデジタルトランスフォーメーションを促そうとしています。これらに対する期待もあれば同時に、その恩恵はすべての人が享受できるようにしなくてはなりませんし、働くもの、生活者に負の影響を及ぼすことがあってはなりません。

従前からの課題である人口減少、超少子高齢化や大都市圏への人口集中等、地方の疲弊、地域間格差をもたらす経済、行政の課題も見られます。地球温暖化対策として政府が打ち出した2050年カーボンニュートラルの動向への注視も欠かせません。今こそ、持続可能で包摂的な「働くことを軸とする安心社会」を実現するとともに、あらゆる差別のない、多様性が尊重され、互いに認め支えあう共生社会の構築を進めていくことが求められています。これは、国連のSDGs達成にも通じるものであります。

そのためにも連合は、2019年に打ち出した連合ビジョンに基づく、「まもる・つなぐ・創り出す」という運動軸に確信を持ち、政策力、行動力、発信力に一層磨きをかけていく所存であります。

加えて、新しい運動スタイルにも挑戦していかなければなりません。連合は今年3月、社会運動に関する意識調査を行いました。その結果は興味深いことに、社会運動への参加志向を世代的にみると、10代が他の世代に比べてもっとも高いという結果でありました。よく「若い世代は無関心」といった指摘がありますが、これはあてはまりません。一方で、デモンストレーション型やボイコット型の運動に対する印象は、けっして良いものではないようです。

組合員が集まったの対話、決起集会、デモといった、従来労働組合が大切にしてきた手法、あるいは価値観は、よりよい社会を求めていく上でゆるぎない力を持っていると確信しています。労働組合がこうして培い、誇りにしてきた運動の力を引き続き大切にしていきながらも、デジタル技術を活用して団結や連帯の形の幅を広げ、より多くの人とつながりあい、寄り添っていく。そうしたツールを活用するとともに、これから労働組合の力としてこれらを発展させていくことが必要です。

同時に、コロナ禍で労働組合への期待が高まっている中、集団的労使関係の確立と拡大は一層の重要性を増しています。連合の登録人員は2015年から7年

連続で増加していますが、組織拡大に徹底的にこだわり、すべての働く仲間を守り、社会の新たな活力を作り出していく取り組みを力強くけん引していく所存であります。

また、今年10月の任期満了までにはかならず衆議院選挙が行われます。4月25日にはその前哨戦として3つの国政補選、再選挙の投開票が行われました。これらの選挙戦は、いずれも連合推薦候補が勝利を収める結果となりました。ご協力をいただいた皆様にあらためて感謝を申し上げます。一方、この3選挙を通じまして、共産党に関する課題が表面化しました。そのことを踏まえて、連合本部として次期総選挙に向けた国政3選挙の総括をとりまとめたところでございます。

次期総選挙は、コロナ禍という国家的危機を克服し、安心して持続可能な社会を展望することが出来るのか、命と暮らしを守る新しい標準、ニューノーマルを實現できるのかが問われる重要な選挙となります。そして、現政権に対峙する、働く者、生活者の期待に応えるもう一つの選択肢の確立は、多くの有権者が望んでいるところであります。そして連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」の實現には、すべての働く者、生活者の立場に立った政治勢力の拡大を図ることがきわめて重要です。

ふたたび、緊張感のある政治体制を實現するためにも、目前に迫った次期総選挙に向けて、連合、立憲民主党、国民民主党の十分な連携協力を基盤としつつ、連合推薦候補者全員の必勝に向けて組織一丸となって取り組んでいく所存であります。皆さんの絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、日本退職者連合は本年11月に結成30周年を迎えると伺っております。皆さんのますますのご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに、この節目を契機にこれまで以上に連合運動へのご理解、ご協力を賜ることをお願い申し上げます、連帯のご挨拶とさせていただきます。

ともにがんばりましょう。ありがとうございました。